

2024年7月18日

日本漢方生薬ソムリエ協会「キハダの皮むき作業」講習会報告書

☆開催日：2024年7月7日、9時から14時

☆参加者（全25名）

講師：山口真保呂、奥様。

会員：宮嶋雅也、笠原良二、信定福明、小松新平、細貝聡、吉原司貴、渡辺賢治、吉川舜、家野太輔、古川和香子、杉本幸子、豊岡寛美、上野睦美、佐々木陽平

非会員：矢数芳英、野上達也、飛奈良治、山野喜

学生（金沢大）：橋本里菜、大窪里菜

現地受入：川原他2名

☆当日スケジュール

8:50 金沢駅西口集合場所に全員集合（20名）

9:00 貸切バス出発——10:45 五郎丸公民館到着（山口様、先着）



10:00 受入元である川原様のご挨拶、山口様の解説により講習会開始

12:30 作業終了、公民館に移動して昼食。

13:20 帰途につく。山口様、ここでお別れ。

14:00 金沢駅到着、解散

☆講習内容、感想等

- 今回の目的の木は15年ほど前に植えたもの。タネをもらってきて数年で苗をつくり植えた。実際、切り倒した年輪からも確認できた。



植えてからしばらく全然太くならないと思っていたが、ここ数年で急に大きくなった。年輪の1年の幅が大きく、成長の速さも確認できた。

- このくらいの太さのキハダを選ぶと効率が良い。細いのはもう少し剥がすのを待った方が良い。



- 太い幹の方が、オウバクとしたときに粘り気があるようだ（経験則）。またじっくりと時間をかけて育成されたキハダは剥ぎやすい。細胞分裂は幹の内（導管）側から、外（師管）側へ向けて行われる。その際に細胞が押しつぶされて、剥ぎやすくなると考えている。
一方で、中国産はあまり時間をかけていないので、剥ぎにくいのかもかもしれない。
（南黄柏は収穫時期が4～5月と早いためだと推察される）
- キハダの樹皮は、長さ1メートル、幅10-20センチくらいの短冊にしている。乾燥時にまるく反るので、乾燥しにくい、カビが生えやすい、何よりも嵩張るので出荷の際の輸送費がかかる。短冊形にすると全て解決する。最終的に刻みにするので、形状は問わない。

以下、皮剥ぎの工程





- コルク層は、樹皮を剥がす前に、幹に付いている段階で剥いだほうが動かなくてやりやすく、また、表面の乾燥を防げ、より剥ぎやすくなる。
- 「お好み焼き返し」で剥がすと便利。バールなど重い道具を使用するとだんだん疲れてくる。
- 今回のキハダは剥がしやすく、参加者の中から「意外にやりやすくてビックリ。手でも剥がせる」といった声が上がっていた。
- ただしキハダには棘上の突起物があり、素手での作業は危険である。少なくとも農家の方々は、必ず手袋を着用の上で作業をするそうだ。



- コルク層が剥がれにくい場合は、ハンマー等で叩くと良い。実際そのとおりだった。
- 剥いた樹皮（すなわち オウバク）は、ヌルヌルと湿っており、乾燥を始めるとベタベタと粘性が上がる。
- 根は大きな幹を支えているので樹皮も厚い。上に行くほど樹皮は薄くなる。実際、根元の部分の樹皮

(コルク層除去後)が1センチ程であったのに対し、今回はいだ、高さ約5メートルの部分は2ミリほど。歩留まりも根本は8割、上は5割ほど。

- 根の部分は厚みがある。また鬼皮も剥がしやすい。



- 3日ほど天日干しで乾燥させる。ただし、カビの問題があるために農家の方々はなるべく早くに手放したいと考えている。現在、業者の方へのお渡しは、お盆後であるが、農家の本音はお盆前。それまでに生薬問屋が買い付けに来て、売り渡してしまうケースもあるようだ。問屋は、乾燥する前でも受け取ってくれるため、単価は安くなるが、そもそも重いため損しないのかもしれない。
- 獣も胃腸の調子が悪い場合に、皮を剥いで舐めに来るそう。あまり見た人はいなく、山口さんも未体験だが、老齢の方は見たことがあるようだ。
- 日光をたくさん浴び、葉が茂るものが皮を剥ぎやすい。森の中の樹は葉が少ないから剥ぎにくい。
- 収穫後、晴れが続くことが大事。乾燥に3日はかかる。乾燥して積んでおいても雨が降ると湿気を吸収するから注意が必要。
- キハダの植林が行われていない昔は、葉の裏が白く見えることから遠くから見つけることが出来ました。五郎丸に着いたときは風がなく見つけられませんでした。風が吹き、光が当たると葉が白く見えました。
- 「キハダの皮剥ぎの時期は梅雨時期が良いと聞いていて、湿度の問題かと思っておりましたが、細胞分裂が盛んで、成長が著しい時期が、木の上の方から始まり、3か月くらいで下の方に来るのがちょうど7月くらい」という説明には目からうろこでした。
- 一度により多くの樹皮をとるために、なるべく太い木を剥ぐ。
- キハダが複数生えていたが、日が当たらない中央は幹が細く、枝が上に上に伸びていた、一方日が当たる外側は太く、枝は外側に伸びていた。これは、キハダが陽樹であるため。
- 山口さんの体感的に、太いキハダほど粘りがある→太いほど締め付ける作用がはたらいて、粘りを出すのではと考えている。下部は粘りが多く、上部は粘りが少ないため、分けて出荷する。
- 生産現場では天日干しで乾燥させるため、収穫後の3日くらいは晴れが良い。
- 剥がす時期は本当はもう少し後が良い(7月後半?)、剥がした後3日間晴れるとベスト」
- 伐倒する際は、倒れる方向を一方向にするため、左右両方向(受け口と追い口)から切り込みを入れ、蝶番状(つる)にする。



参考：https://www.rinsaibou.or.jp/safety/method/index_1.html



- コルク層は、カビにくく保存が効くため、薪ストーブの着火剤に使用したりする。



切り倒したキハダの切り株



以上。